

## 研究活動報告

### 特別講演会 (11月5日, Prof. Xiaochun QIAO)

2003年11月5日(水)午後3時~5時に当研究所で、中国人民大学人口研究所の喬曉春教授(Xiaochun QIAO)教授が「中国の人口とリプロダクティブヘルス」("Population and Reproductive Health in China")と題された特別講演を行った。

喬教授は中国国家統計庁の地方支局長を務めていたことから明らかな通り、理論・実証の両面で人口統計に精通した専門家で、2000年センサスの評価・分析委員会にも参加していた。また、人口統計の精密な評価を踏まえた上での人工妊娠中絶や男児選好の分析や、高齢者の健康寿命を含めた人口高齢化に関する研究を内外の学会で発表している。さらに、中国人民大学の前人口研究所長を務め、現在も『人口研究』の編集長を務めるなど国内的に活躍する一方、カロライナ人口研究センターで客員研究員を務めるなど、国際的な研究活動も活発にしてきた。

なお、今回の特別講演は喬教授のアジア経済研究所客員研究員としての在任期間終了直前に以上の多方面にわたる研究を基に行われた。各方面から関心を集めているテーマで講演されたため、比較的多くの聴衆が来られ、活発な議論が行われた。(小島 宏記)

### 特別講演会 (12月1日, Prof. ZENG Yi & Dr. WANG Zhenglian)

2003年12月1日(月)午後2時~5時に当研究所で、北京大学中国经济研究センター・デューク大学人口研究センターの曾毅(ZENG Yi)教授が「障害余命の過小評価の補正に関する新たな手法と中国後期高齢者への適用」("A New Method for Correcting Underestimation of Disabled Life Expectancy and Application to Chinese Oldest Old")と題された特別講演を行い、デューク大学人口研究センター研究員・Households and Consumption Forecasting Inc.社長のWANG Zhenglian博士が「新たなProFamyソフトウェアとその米国の世帯推計への適用」("ProFamy New Method/Software and Application to U.S. Household Projection")と題された特別講演を行った。

曾毅教授は形式人口学を中心とする各分野で世界的に著名な方で、多数の英語の業績がある。Wang博士も形式人口学の専門家で米国政府補助金によりProFamyを普及するためのベンチャー企業を運営されている。

なお、今回の特別講演は第7回アジア・オセアニア国際老年会議等のために来日された機会をとりえて行われたが、2名の講演者が中国、高齢化、世帯推計といった関心を集めているテーマにまたがった講演されたため、多くの聴衆が来られ、活発な議論が行われた。(小島 宏記)

### 第8回厚生政策セミナー

#### 人口減日本の選択—外国人労働力をどうする?—

2003年12月16日(火)午後1時~5時に国連大学国際会議場で第8回厚生政策セミナー「人口減日

本の選択—外国人労働力をどうする?—」が以下のプログラムの通り、開催された。

12:30～ 受付

13:00～13:20 開会挨拶・問題提起 阿藤 誠 (国立社会保障・人口問題研究所)

#### 基調講演

13:20～13:50 1. アジアの経験 Maruja M. B. ASIS (Scalabrini Migration Center)  
マーラ・アシス (フィリピン スカラブニ研究所研究部長)

13:50～14:20 2. 欧米の経験 Michael TEITELBAUM (Alfred P. Sloan Foundation)  
マイケル・タイトルバウム (アメリカ スローン財団研究部長)

14:20～14:35 休憩

パネル討論 司会 小島 宏 (国立社会保障・人口問題研究所)

14:35～15:15 第1部

1. 国際労働移動研究の立場から 井口 泰 (関西学院大学経済学部教授)
2. 開発研究の立場から  
早瀬保子 (日本貿易振興機構アジア経済研究所開発研究センター研究主幹)
3. 法律研究の立場から 山川隆一 (筑波大学社会科学系大学院教授)
4. 移動研究の立場から  
Pookong KEE (立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部教授)

15:15～17:00 第2部

基調講演者・討論者・聴衆

今回のセミナーは近年、再び論議が活発になったテーマで行われたため、厚生政策セミナーとしては多くの聴衆が最後まで参加されていた。なお、『第8回厚生政策セミナー報告書』が2004年3月に刊行予定 (ホームページ上にも掲載予定) であるし、本誌第60巻第3号 (2004年9月刊行予定) には阿藤所長の問題提起、基調講演者の論文 (翻訳)、筆者による総括を中心とする特集が掲載予定であるので、詳しくはそれらを参照されたい。

(小島 宏記)

## 特別講演会 (12月25日, Prof. Kazuo YAMAGUCHI)

2003年12月25日 (木) 午後2時～4時に当研究所で、米国シカゴ大学社会学科の山口一男 (Kazuo Yamaguchi) 教授が「サバイバル確率による期間合計出生率の推計と近年の少子化傾向の再評価について」 ("Survival Probability Indices of Period Total Fertility Rate and Recent Fertility Decline" 論文は麗澤大学の別府志海博士との共著) と題された特別講演を行った。内容が専門的であることから、数理人口学の専門家、稲葉寿 (東京大学大学院数理科学研究科) 助教授に討論者を務めていただいた。

山口一男教授は社会学方法論の分野では世界的な第一人者の一人で、人口も含むさまざまな応用分野で多数の英語の業績をおもちで、今回のご講演と関連する生存分析について *Event History Analysis* (SAGE, 1991) と題された教科書も書いている。

なお、今回の特別講演は (財) 家計経済研究所のパネル調査会議の関係で来日された機会をとらえ、